

平成 21 年度一校一国運動活動状況報告書

栄区 桜井小学校

対象国：コンゴ民主共和国

活動時期 7月

実施単位 全校児童 主に6年生全員

学習内容 (6年)

- ・コンゴ民主共和国について調べる (1時間)
- ・コンゴ民主共和国について調べたことを交流する (1時間)
- ・留学生の方に伝えたい日本の伝統文化について考える(1時間)
- ・留学生ディバインさんとの出会い (3時間)

○全校集会 コンゴについての質問など

○コンゴ民主共和国について知る。

場所、国旗、生活の様子、衣服の様子、内戦の歴史など

○日本の文化を紹介、体験していただく。

けん玉、羽根つき、こま、竹馬、食べ物、お茶、季節、昔話、着物(浴衣)など

- ・出会いを通して学んだことをふり返る (1時間)

- ・独自給食・・・栄養士、調理員の方々の御協力のもとコンゴ料理メニューを実施



〈全校集会の様子〉

子どもたちの様子

- ・コンゴと名のつく国が2つあることに疑問をもち、興味関心をもって調べ学習を行い、留学生との出会いを心待ちにしていた。
- ・留学生ディバインさんが用意してくれた資料をくいいるように見つめ、言葉はわからないながらも、内容を理解しようとつとめていた。



〈コンゴの様子を話していただく〉



〈コンゴの工芸品にふれる子どもたち〉

成果

- ・本やインターネットでもあまり情報が得られないコンゴ民主共和国という国について、

留学生の方と直接触れ合うことで、興味関心をもつことができた。

- ・コンゴ民主共和国での内戦の歴史を聞き、平和な日々を送ることができるありがたさを感じている児童も多かった。
- ・お互いの国の生活習慣や文化の違いを知り、それぞれのよさに気付くことができた。
- ・「人」と出会ったことで、ただ映像などで知る以上に子どもたちの心に残ったようだ。



〈竹馬に挑戦するディバインさん〉



〈浴衣を体験していただく様子〉

子どもたちの感想より

- ・コンゴ民主共和国の子どもたちは、日本みたいに学校に行くのが義務教育じゃなくて、お金がない家の子もは学校に行けないことを知った。
- ・コンゴ民主共和国と、とりにあるコンゴ共和国は、ちがう国だということを初めて知った。キンシャサという中央アフリカの中心点がコンゴの首都だというのはすごいと思った。
- ・竹馬やはねつき、こま回しなどぼくたちよりもうまかった。コンゴにも似ている遊びがあると聞いてふしぎに思った。
- ・コンゴは、ベルギーの植民地にされていたり、内戦などが起こっていたりして、悲しい歴史があるということに驚いた。
- ・ディバインさんはとても背が高く、素敵な人だった。英語も上手で、コンゴの衣服について教えてくれた。コンゴの人は、一枚の布を洋服やさんにもって行って作ると言っていた。その国々で、いろんな衣装があるのがおもしろいと思った。
- ・コンゴには世界遺産がたくさんあって、みどりが多いということがわかった。いつか行ってみたいと思った。
- ・コンゴにはキャラクターというものがないらしく、ぼくたちが発表した日本のキャラクターに興味をもってくれてうれしかった。
- ・ディバインさんが浴衣を着てくれて、すごく着心地がよいと言ってくれてうれしかった。

課題

- ・短い滞在時間だったので、もう少し交流の内容、方法を厳選すべきであった。
- ・活動後、子どもたちの中でユニセフ募金などに関心は広がったが、手紙交流など留学生の方本人とも交流が続くような関係が持てれば尚良い。